

日本の教育は、今の時代に合っているかという話はよく聞くところである。この話は「校長研修だより98号（いいとこ取り）」ですでに話している。被る話にはなるが、今一度、マインドセットをしたい。

ある人は、今の学校は限界に来ていると言う。今の学校にいる私たちは、どうすればよいかわからず、迷走している。これまでの経験則が邪魔をして、目標を共有することが難しいからである。社会の変化を知り、目標を共有さえすれば、全然大丈夫だと私は思っている。最上位の目標を共有し、教師が再マインドセットさえすれば、これまでの指導方法も生かせるし、教師という職業の醍醐味もこれまで同様に味わえる。日本の学校教育が“オワコン（終わったコンテンツ）”と言われたくない。

社会の変化に敏感な人は言う。「今の学校は、もしかしたら生徒のためにも、社会のためにも役立っていないのかもしれない。時に弊害ですらある時を感じる。理由は簡単で、時代に合っていない、社会の変化に全く追いついていないと思う」と。これまでの学校は、勉強を教わる場所、集団での振る舞いを身に付ける場所であった。だから、校則が教師によって決められ、1クラスの人数も40人と多い。これまでの社会が求める人材は、労働者を求めていた。「従順な人間」「よき納税者」という言われ方もされていた。今も色濃く残っているとも言われる。そして、「あの学校に入れば大丈夫」「あの会社に入れば大丈夫」という“人任せ”的な思いもあった。私は、そこから脱するためにも、40人学級のようなクラスは、学校運営としてしたくないという思いはある。

先週、宗教部主任の落合先生が、朝の礼拝で、旧約聖書箴言27章17節の、「鉄は鉄をもって研磨する。人はその友によって研磨される」という箇所を話した。実は、私はこの言葉にインスパイアされ、入学式の式辞で「ひとりにもなれる ひとつにもなれる。ひとりにもなれるとは、自分を磨くのは自分。ひとつにもなれるとは、人は人によって磨かれる」という話をする。クラスの人数を減らしたい考えはあるが、人は人で磨き合うことは大切になる。

これからの社会が求める人材は、「主体性」「柔軟性」「人たらし」である。それは、「異質のたし算マインド」が、リサーチ力やクリティカル力を身に付けさせるからである。だから、「自らヒト・モノ・コトに関わろうとする主体性」、「受け入れる力の柔軟性」、「人から好かれる人たらしの要素」が、たし算を生みやすくする。

日本の学校に欠けているのが、生徒や教師の主体性とそれを育むための対話、対話を可能とする生徒と教師の人としての対等な関係と言われる。これからの社会が求めるのは、主体性であり、オープンマインドをもつ人材である。

世界の学校は、この部分が優れている。マインドセットを重視している教育である。生徒に「自分は何者か」に気付かせようとする教育である。本校で言う「大切なひとり」につながる。いつも言うが、本校は、日本の学校の特徴プラス、このマインドセットを重視する教育をずっと行っている。

私は、このことは時代が本校に追いついてきた（笑）と考えるようにしている。私は、堂々とオープンスクールの校長あいさつで、「知識・スキル・偏差値の学校は“オワコン”です。本校は、知識・スキル・マインドセットの学校です。これまでもそういく教育をやっているし、これからもやっていく。これが、今の社会に求められる人材、今の社会で活躍する人材につながる」と話している。